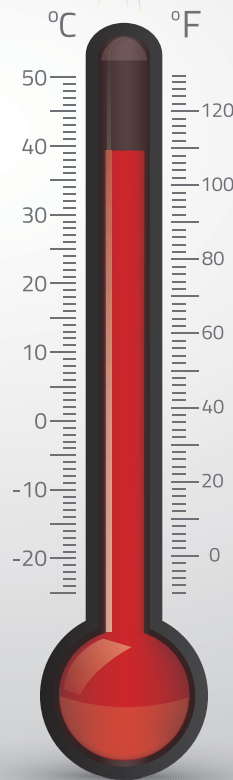
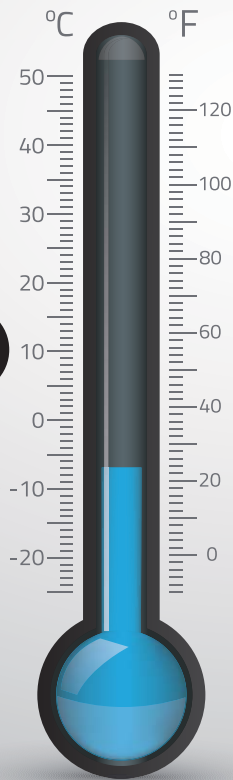
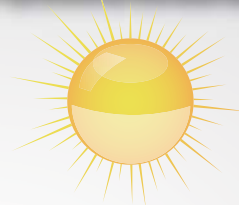


ヒートショックから熱中症まで —季節変化と健康危機—



平成26年

9月4日(木)

午後1時15分～

午後4時30分

会場

板橋区立文化会館
大ホール

東京都板橋区大山東町51-1

手話通訳あり

当日先着
1,200人
事前申込不要・
入場無料

定員に達した場合はご入場いただけませんのでご了承ください。

講演

1 「ヒートショックを解明する」

東京都健康長寿医療センター研究所 副所長

高橋 龍太郎

2 「熱中症はなぜ高齢者に多発するのか」

東京都健康長寿医療センター研究所

福祉と生活ケア研究チーム 研究員

野本 茂樹

3 「季節でかわるはやり病」

東京都健康長寿医療センター 顧問医

稲松 孝思

質疑応答

司会 遠藤 玉夫 東京都健康長寿医療センター研究所 副所長

主催 東京都健康長寿医療センター研究所

共催 板橋区



東武東上線 大山駅北口 徒歩3分
都営三田線 板橋区役所前駅A3出口 徒歩7分



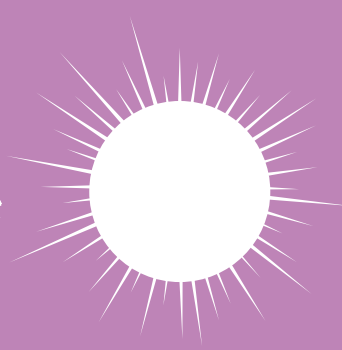
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター 研究所
(東京都老人総合研究所)

広報普及係

03-3964-3241 (内線1240)

ホームページ http://www.tmg Hig.jp/J_TMIIG/J_index.html

定員に達した場合はご入場いただくことができませんので、ご了承ください。



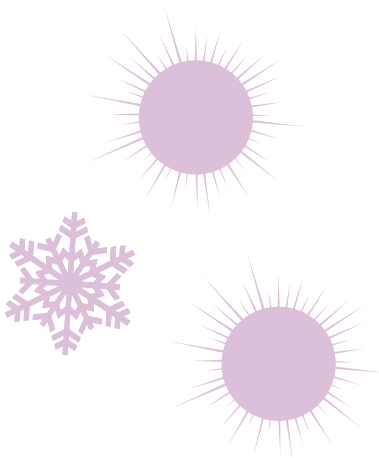
ヒートショックから 熱中症まで

—季節変化と健康危機—

病気や事故にはいろいろな原因が関わっています。食べすぎ、飲みすぎは糖尿病や肝臓病を引き起こすかもしれませんし、ガンになりやすい体質の本体も遺伝子の研究からわかってきました。実は、季節の移り変わりも私たちの健康に大いに関わりがあるのです。

国が毎年発表している我が国の死亡者の数をみますと、6月と9月が最も少なく、12月、1月に最も多くなっています。また、7月、8月も結構多い月です。私たちの体も、暑すぎたり寒すぎたりする時期には大いに影響を受けているのです。今回はその代表例である冬場の入浴死（ヒートショックと呼ばれることもあります）、夏場の熱中症、そして気温と関係が深い感染症についてお話しします。

東京都健康長寿医療センター研究所
副所長 高橋 龍太郎



地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター 研究所
(東京都老人総合研究所)

広報普及係

03-3964-3241 (内線 1240)

ホームページ http://www.tmg Hig.jp/J_TMIG/J_index.html

